

全国銀行の平成 22 年度決算の状況(単体ベース)

<要 旨>

1. 経常利益

経常収益は、国債等債券売却益の大幅な増加により**その他業務収益**が増加した一方、**資金運用収益**が減少したことに加え、株式等売却益の大幅な減少により**その他経常収益**も減少したことから、15兆5,054億円（前年度比6,676億円、4.1%減）となった。

経常費用は、与信関係費用の大幅な減少により**その他経常費用**が減少したことに加え、**資金調達費用**も減少したことから、12兆2,443億円（同1兆4,830億円、10.8%減）となった。

この結果、**経常利益**は、3兆2,611億円（同8,154億円、33.3%増）と2年連続して増益となった。

2. 当期純利益

当期純利益は、2兆5,084億円（同6,969億円、38.5%増）と2年連続して増益となり、リーマン・ショック前の水準を回復した。

3. 業務純益

業務純益は、4兆9,471億円（同1,422億円、3.0%増）と2年連続して増益となった。

(注) 平成 22 年度決算における**全国銀行**とは、都市銀行 6 行（みずほ、三菱東京UFJ、三井住友、りそな、みずほコーポレート、埼玉りそな）、地方銀行 63 行、地方銀行Ⅱ（第二地方銀行協会加盟銀行）42 行、信託銀行 6 行（三菱UFJ信託、みずほ信託、中央三井信託、住友信託、野村信託、中央三井アセット信託）、新生、あおぞらの 119 行である。